

第 1151 回放送分『甲状腺疾患』4 回目

ゲスト：中条哲浩ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは、「甲状腺疾患」についてお送りしています。

お話は、鹿児島大学乳腺甲状腺外科 中条哲浩（なかじょう あきひろ）ドクターです。

中条さん、どうぞよろしくお願いいたします。

中条哲浩Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は甲状腺のがんについてお話しいただきました。

甲状腺のがんは他のがんと違い、一部のがんをのぞいてゆっくり進むというお話でした。

がんにもいくつかタイプがあり、

最も多いのが乳頭がんで、8 割くらいはこのタイプ、

進行もゆっくりで、大きさも変わらないことが少なくないというお話でした。

一方、1%未満ではありますが、未分化がんというタイプだと、

進行がとても早いため、急に大きくなったと感じるしこりに気づいたら、

すぐに受診することが大切ということでした。

今日は何についてお話しいただけますか。

中条哲浩Dr.

今日は放射線治療についてお伝えします。

その前にまずおさらいなのですが、第1週目にお伝えした甲状腺の働きについて、

改めてお伝えしておきます。

甲状腺は食べ物に含まれるヨウ素を材料にして、甲状腺ホルモンをつくり、

保存して、分泌することができる臓器とお伝えしました。

二見いすず

そうでしたね。

中条哲浩Dr.

ヨウ素を取り込むことができるのは、体の中で唯一、甲状腺の細胞だけです。

そして甲状腺の濾胞細胞という細胞が、甲状腺の 99%を占めています。

二見いすず

その濾胞細胞がヨウ素を取り込んでくれるんですね。

中条哲浩Dr.

はい、そうです。

以上のことをご理解いただいた上で、甲状腺がんの放射線治療の話をいたします。
放射線治療というと、体の外から放射線を照射するイメージがあると思いますが、
甲状腺がんの放射線治療は、放射性ヨウ素のカプセルを飲む、
体の内側からの内照射になります。

二見いすず

そういった放射線治療もあるんですね。

中条哲浩Dr.

先ほどお伝えしたとおり、ヨウ素を取り込めるのは体の中では
甲状腺の濾胞細胞だけなので、
この性質を応用した、非常に理にかなった治療といえます。

二見いすず

本当にそうですね。

中条哲浩Dr.

放射性ヨウ素のカプセルを飲むと、濾胞細胞由来の甲状腺がんに取り込まれ、
そこでがん細胞を選択的に攻撃します。
そしてもし転移したとしても、たとえば肺に複数カ所転移した場合でも、
放射線治療をしたらちゃんと肺の複数の病巣に選択的に到達して効果を発揮するんです。

二見いすず

すごいですね。

この放射線治療は手術をしたあとに行うのでしょうか？

中条哲浩Dr.

はい。肺などの転移がある場合はもちろんですが、多臓器の転移がなくても進行がんであれば
予防的に手術のあとに行います。
非常に効果的でよく効きますが、先週お伝えしたがんのタイプで、
髄様がんと甲状腺リンパ腫、そして未分化がんは、放射線治療の適用になりません。

二見いすず

よく分かりました。

今月は「甲状腺疾患」についてお送りしています。

お話は、鹿児島大学乳腺甲状腺外科 中条哲浩ドクターでした。

中条さん、ありがとうございました。

中条哲浩Dr.

ありがとうございました。